

## 聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で (ヨシエル)」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119 : 7、エペソ人 6 : 5 「真心から」、マタイ 13 : 44-46

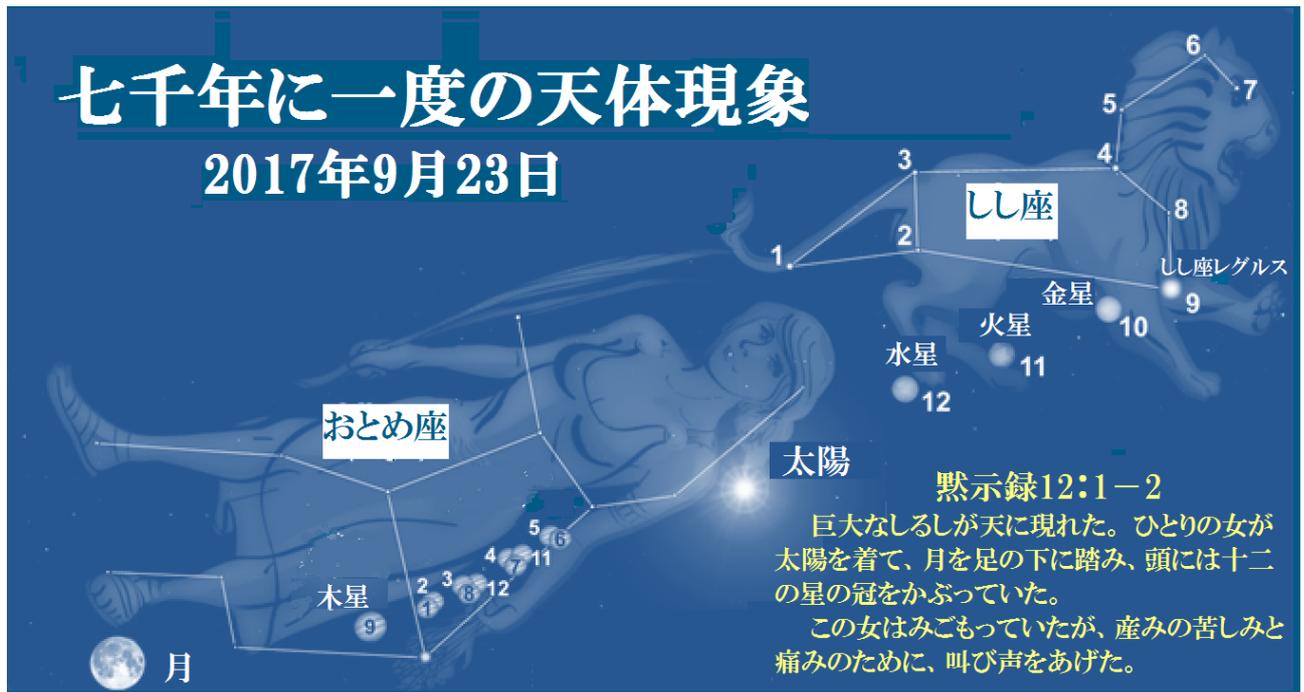
しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ②ダイナミックな多角的、立体構造 :  
神の視点、人類史に先立って配備された神の考案、天地宇宙の全被造物は神を証し
- ⑥究極的に立証される神のすべての言葉
- ④聖書自体が成就を証しする真の神の預言 :  
聖書が聖書を解釈、神の約束の確かさ、成就の確かさ (ご自身の言葉に真実な神)

### 創造の初めから「贖いの人類史」が預言的に顕された天体の描画

☆私たちの信じている神は、先のことをすべて正確に、前もって告げることのできる方

→ イザヤ書 46 : 10、41 : 22-23 ほか



☆神は、天に、御旨を告げ知らせる「しるし」を置かれた

→ 創世記 1 : 14、詩篇 19 : 1 ほか

### 占星術との違い

☆しるしを求めることは「占星術」で、これは偽り

\* 占星術は偶像崇拜的、オカルト的慣習、星や月や太陽を神格化

\* 占星術は、これら天体が地上の生命を支配すると、教える

☆対照的なのは、聖書に従った「天のしるし探究」

\* 私たちは、

創造者なる神が、すでに定められたパターンで天体運動を起こされることを認識し、

神が顕されたメッセージを聖書に照らして受けとめる

☆聖書は、キリストの再臨に先立って天に大きなしるしが現れることを明記

☆太陽、月、星は、三つの理由で創造された

1. 昼と夜とを分けるため
2. 地上に光を与えるため
3. 日、年、季節、しるしを示すため

## 聖書

## 黙示録12章

☆黙示録12章の描写は、地の住民が目で見ることのできる天文学的出来事

☆最初の五節は、二つの異なったしるしに言及

\*1-2、5節「巨大なしるし」、子を産もうとしている女

→2017年9月23日の天空で見られる

\*3-4節 「別のしるし」

## おとめ

「処女」、「未婚の娘」の意、おとめ座は天空で二番目に大きい星座

天文学の「黄道帯」とユダヤ人の「十二宮」の十二の星座の一つ

\*中心部に、子宮とみなされる四角形を形成

\*十二宮のうちでは女を代表する唯一の星座

## 太陽

「太陽を着る」

\*9月23日には、太陽は女の肩の上に位置、日中、地上の視界からおとめ座は隠れる

## 月

9月23日、中東の観測者の視界におとめ座はうつぶせで現れ、月はおとめ座の足の下に現れる

## 十二の星の冠

ヘブル語とギリシャ語の「冠」の用語と、私たちが星や惑星に用いる言葉とに区別はない

\*惑星は、古代用語では「さまよっている」星と呼ばれている

\*おとめ座の頭上は「しし座」、一九つの主要な星で構成—

9月22、23日は、惑星の水星、火星、金星が加わり、おとめ座の頭上には十二の冠を形成

## 木星

太陽系では最大の惑星、女が生み出す男の子を象徴

① 全教会史、この文脈の男の子をイエス・キリストとみなすことで一致

## 木星のユニークな特徴

(1) 縞でおおわれている

(2) 大きな赤い斑点がある

(3) 私たちのために「打撃を請け負っている」

—太陽系外から、地球を直撃する致命的な流れ星や小惑星のほとんどを吸収—

② 古代世界では、木星はいつも最高の男神、あるいは、神の子に関連づけられた「王の惑星」

③ 2016年11月20日に、おとめ座の子宮部に入った木星は、四十二週の間留まる

\*木星は、おとめの子宮内できわめて珍しい逆行運動をし、2017年の9月9日に出ていく

\*黙示録12章のこの最初の「巨大なしるし」、

木星が子宮から出た後二週間かけて天の産道を下り、5節で男の子が生まれ完了する

## 重要性

☆黙示録の書のちょうど真ん中の、艱難期の描写への導入箇所に置かれたのがこの天空の描画

## マリヤとイスラエル

☆この女は、個人的にはマリヤ、集合的にはイスラエル

\*ユダヤ人を通してメシヤが生まれ、メシヤを通して信じる者すべてが

「女の子孫の残りの者」と認められる

女 ⇒ { 男の子 (キリスト) ⇒ 異邦人信徒  
          ユダヤ人           ⇒ ヤーウエを信じるユダヤ人

## 聖書

## 竜、一サタンと反キリストの王国一

☆「サタン」を描写、同時に、集合的に、反キリストとその王国を象徴

## 男の子

☆明らかに、イエス・キリスト

☆女と竜が集合的に解釈されたと同じパターンで、子どもも集合的な意で「教会」と解釈できる

1. 象徴の一貫性
2. イザヤ書66：7-8  
「…男の子を産み落とした…同時に、子らを産んだのだ」（下線付加）
3. ダニエル書7：18、：26-27  
「いと高さ方の聖徒である民」に主権と天下の国々の権威とが与えられる
4. 用語「御座に引き上げられた」は、キリストの昇天時の用語とは異なるギリシャ語
5. 詩篇2：9「…鉄の杖で…」治める、の集合的適用例が数箇所に見られる  
→黙示録2：26-27では教会に適用

## 異なった見解に対する反駁

☆黙示録12章の天体現象は2017年9月23日以前にも起こった、との主張

1. 70CE、8月27日
2. 3BCE、9月11日
3. 3915BCE、8月5日  
\*3. では、肉薄の出来事が起こったが、木星の逆行運動は子宮外で行われた

## 2017年9月23日の天体現象の後、何が起こるか？

## 御使いがもたらす三つのメッセージ 黙示録14：6、：8、：9-10

☆おとめの冠を構成した三つの惑星（さまよう星：水星、金星、火星）の移動

→御使いは「星」、惑星とみなされる

☆黙示録14：6

「…もうひとりの御使い…地上に住む人々…に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた」

## 【1】最初のメッセージ

☆水星が14：6の御使いとして、移動を始める

☆2017年10月14日、木星を通り過ぎ、「てんびん座」に入る

☆この御使いのメッセージは、全地の人々に宣べ伝える「永遠の福音」

☆黙示録14：8

「…別の御使いが…言った。『大バビロンは倒れた。倒れた…国々の民に飲ませた者。』」

## 【2】次のメッセージ

☆金星が水星に続いて、14：8の御使いとして移動を始める

☆金星、「さそり座」に行き、さそりの爪に入る

☆この御使いのメッセージは「バビロンの滅び」

☆黙示録14：9-10

「…別の御使い…大声で言った…獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら…」

## 【3】三番目のメッセージ

☆戦争を象徴する、三番目の御使い「火星」、木星を通り過ぎ、「てんびん座」、「さそり座」を通り、金星をも通り過ぎ、「へび使い座」に入る

☆へびつかい座の蛇使いは、ミカエルが蛇と戦っている光景

→黙示録12：7「…竜とその使いたちは応戦した…天にはもはや彼らのいる場所がなくなった」

→テサロニケ人第二2：7-8

聖書

**大きな星オフィウコス = 主天使ミカエル**

☆このへびつかいは主天使ミカエルとみなされる

☆へびつかい座の蛇使いのお腹のあたりに、オフィウコスと呼ばれる大きな星があり、ケルビムのような、神々しい御使いをさす

**へび座**

☆おとめ座の足元に位置するへび座

☆蛇の頭は七つの星で構成、へびの頭の上にある冠座も七つの星で構成

→黙示録 12 : 3 の「**大きな赤い竜**」を描写



**おとめ座、てんびん座、さそり座の位置関係**



**【4】四番目のメッセージ：**

☆天からこの世への警告

黙示録 14 : 13 「…『書きしるせ。いまから後、主にあつて死ぬ死者は幸いである…』」

**竜に追われた女はどのようにして救い出されるのか？**

☆女は、「地が口を開く」ことによって、助かる

★1783年に起こった浅間山の大噴火（地が口を開く）では、八ヶ月間黒煙が地をおおった

☆2017年6月12日以降、イエローストーンで、地震の連続

★8月22日、皆既日食の翌日には、M3.2の地震発生、その後最大地震 M4.4 が発生

→世界中、至る所で、火山活動、地震活動が活性化

☆世界中で同時多発的に、火山爆発をはじめ、自然災害が起これば、

→黙示録 8 : 12-13 のメッセージに関連づけられる

☆今日、ISIS は占領地域で、町という町を破壊

このように、主の再臨までに、世界中の多くの町々が、破壊されることになる

→イザヤ書 13 : 6-13

「泣きわめけ。主の日は近い。全能者から破壊が来る…私は、その悪のために世を罰し、その罪のために悪者を罰する。不遜な者の誇りをやめさせ、横暴な者の高ぶりを低くする。わたしは、人間を純金よりもまれにし、人をオフィルの金よりも少なくする。それゆえ、わたしは天を震わせる。万軍の主の憤りによって、その燃える怒りの日に、大地はその基から揺れ動く」

**悔い改めの期間**

☆2017年8月21日（米国で皆既日食）は、ユダヤ暦では小さな悔い改めの日

イスラエルの六番目の主の例祭、ヨム・キプル/贖罪の日までの四十日間は悔い改めの期間

☆ユダヤ暦では、今年の「贖罪の日」は、9月30日 →レビ記 23 : 27

☆この四十日間は「悔い改めて、罪の赦しを請いなさい」と、神が与えてくださった憐みの期間